肝臓移植

使用器具　評価ポイント ○

肝臓を移植する術式。追加トレイにある肝臓を矢印の指す場所に設置し、肝臓側の管と4つの血管を繋げて縫合すれば処置完了となる。ただし、血管の処置は、静脈、門脈、動脈、胆管の順に行なう必要があり、処置をする血管には収縮剤(灰色の液体)を投与しておき、薬の効果時間に注意して作業を進めなければならない。ちなみに、同じ血管であれば収縮剤はどこに打っても構わないが、別の血管に投与すると「Miss」になる。収縮剤を投与したあとは、血管に表示されるガイドラインにメスを入れて切開部の血溜まりを吸引。次に肝臓側の管を伸ばして血管の切開口に吻合する。切開口まで伸ばすとピンセットを離すまえに繋がるので、そのあとでピンセットを離すこと。最後に管の接合部を縫合すれば1本分の処置が完了。残りも同じように進めよう。

血管に表示されたガイドラインが切開部。ガイドラインが見つからないときは術野を移動させよう。

収縮剤の効果が切れると、繋げた管が外れる。再度血管に収縮剤を投与し、処置をやり直そう。

[手順]

1. ピンセット　臓器を設置
2. 注射　収縮剤を血管に投与
3. メス　血管を切開
4. ドレーン　血溜まりを吸引する
5. ピンセット　管を血管に吻合する
6. 針と糸　吻合した部分を縫合する

評価ポイントに関わる要素

- 収縮剤を正しい場所に投与し、効果が切れるまえに処置をする
- 血溜まりが再発するまえに血管の処置を終える
- ミスなく管を吻合する
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

特殊腫瘍

使用器具 　評価ポイント

大腸に発生した新しいタイプの腫瘍を摘出する術式。この特殊腫瘍は、ドレーンで組織液を吸引し、腫瘍を支えている3本の血管をメスで切除したら、ピンセットで患部を回収するという手順で治療でき、通常の腫瘍と比べると治療法はそれほど複雑なものではない。ただし、特殊腫瘍が複数発生したときは厄介になり、1つを処置しても、他の特殊腫瘍が残っていると、一定時間経過後、摘出した患部に再び特殊腫瘍が出現してしまう。そのため、複数の特殊腫瘍が発生した場合は、すべての患部を血管の切除まで行なっておき、最後にまとめて回収トレイに乗せて一気に摘出するという対処法が必要になってくる。なお、特殊腫瘍は、患部回収後に小腫瘍を周囲に生み出す。特殊腫瘍の処置後は、忘れずに小腫瘍の治療も行なっておこう。

特殊腫瘍は臓器の上に発生するので、探す必要はない。組織液の吸引作業から行なおう。

3つの血管を切除するときは、バイタルが減少する。切除するまえにバイタルを回復しておこう。

特殊腫瘍が複数発生したら、まずはすべての患部を切り離し、最後に回収作業を素早く行なおう。

[手順]

1. ドレーン　組織液を吸引
2. メス　血管を切除
3. ピンセット　患部を除去する

電子装置

使用器具　評価ポイント ○

脳内に設置された電子装置の機能を解除する術式。まずは電子盤の中央に置かれた3つのチップを回収トレイに運ぶ処置を行なうのだが、このときは電子盤を移動する回転物に触れないように運ぶ必要がある。3つのチップを回収できればプラグの装置に切り替わる。プラグの装置では、5本のプラグを装置から抜き取り、すべて回収トレイに乗せればOK。ただし、垂直に抜けなかったり、赤く点滅しているプラグに触ると「Miss」になり、バイタルは大きく減少する。すべてのプラグを回収すると再度電子版の装置に切り替わる。ここでは、追加トレイの3つのチップを電子盤の中央に置けば術式完了。ただし、回収時よりも回転物の数が多くなり、さらにチップを追尾する回転物まで出現する。

チップが回転物に触れるとバイタルが0になり、手術失敗となる。最後まで気が抜けない。

プラグ抜きでは垂直にプラグを抜くこと。1本だけ長いプラグが混ざっているので慎重に抜こう。

[手順]

1. ピンセット　中央部にある3つのチップをトレイに運ぶ
2. ピンセット　5本のプラグを引き抜き、トレイに運ぶ
3. ピンセット　トレイから3つのチップを中央部に運ぶ

評価ポイントに関わる要素

- 回転物に触れないでチップを運ぶ
- ミスすることなく、プラグを抜いてトレイに運ぶ

破裂炎症

使用器具 　評価ポイント

肺に発生する3色の炎症を次々と処置する術式。破裂炎症は、一度に規定の数だけ発生し、すべての炎症を処置すると評価が表示され、次の炎症が発生するという仕組み。これを7回行なうと治療成功となる。

破裂炎症は、炎症と同色の解毒剤を患部に投与すれば消滅するが、そのまえに鎮痛剤を投与して炎症の色を消す必要がある。炎症が発生するまえから鎮痛剤を吸引しておき、炎症の色を覚えたらすぐに鎮痛剤を投与して治療にあたるといい。また、同色の炎症をまとめて治療したほうが注射の吸引回数も減るので処置スピードは上がる。

発生する炎症は、色が違うだけではなく、性質も異なる。赤は成長スピードが速いが、少量の解毒剤で処置可能で、破裂時のバイタルの低下が少ない。青は成長スピードは遅いが、発生中はつねにバイタルを減少させるうえ、破裂時のバイタル低下がいちばん大きい。黄は成長スピードが赤と青の中間だが、破裂時のバイタル低下は大きい。ちなみに、炎症が破裂すると、破裂痕が残り、周囲に裂傷と血溜まりを発生させる。破裂痕はヒールゼリーで治療可能だ。

鎮痛剤は破裂炎症が成長する速度を遅くする効果もある。できるだけ速めに投与したい。

破裂炎症は一定時間で破裂する。1ヵ所でも破裂すると「Cool」評価にならない。

[手順]

1. 注射　鎮静剤を投与する
2. 注射　同色の解毒剤を炎症に投与する

評価ポイントに関わる要素

- 解毒剤を正しい場所に打つ
- 炎症を破裂させない